

知覚の現象学2



[知覚の現象学2 下载链接1](#)

著者:モーリス・メルロ=ポンティ

出版者:みすず書房

出版时间:1974年11月7日

装帧:A5判 タテ210mm×ヨコ148mm

isbn:9784622019343

「たとえば、〈あられ〉という語は、私がいま紙のうえに記したばかりのこの文字の

ことでもなければ、私がいつか、はじめて書物のなかで読んだあのもうひとつの記号のことでもないし、さらにまた、私がこの語を発音したとき空気をよぎって行ったあの音のことでもない。そうしたものは、語の再生産形態でしかないので、私はたしかに、それらの再生産形態のすべてに語をみとめはするけれども、語がそれらですべて尽くされてしまうというわけではないのだ。……語の意味というものは、対象のもつ若干の物的諸特性によってつくられてはいはず、それはなによりも、その対象が或る人間的経験のなかでとる局面、たとえば〈あられ〉という語の意味なら、空からすっかりできあがって降ってきたこの固く、もろく、水に溶けやすい粒々のまえでの私のおどろきのことなのだ。それは人間的なものと非人間的なものとのひとつの出会いであり、いわば世界の或る行動、そのスタイルの或る屈折であって、またその意味の一般性も、語音のそれとまったくおなじく、概念の一般性ではなくて、典型としての世界の一般性である。してみると、言語はたしかに言語の意識を、意識の沈黙を前提としており、これが語る世界を包みこみ、ここからまずはじめに語が形状と意味とを受けるわけである」（本文295～6頁より）。全2冊。

作者紹介:

モーリス・メルロー=ポンティ

Maurice Merleau-Ponty

1908年フランスに生まれる。1926年エコール・ノルマル・シュペリュール入学。在学中サルトル、ボーヴォワール、レヴィ=ストロースらと知り合う。1930年哲学教授資格試験に合格。その前年にフッサールのソルボンヌ講演、1935-39年には高等研究院におけるコジエーヴのヘーゲル講義を聴講。ルーヴァンのフッサール文庫に赴き、遺稿を閲覧したのは1939年。第二次大戦中は従軍・レジスタンス活動を経験した。1945年、学位論文として同年刊の『知覚の現象学』および『行動の構造』（1942）を提出、博士号を受ける。1946年、サルトルとともに「レ・タン・モデルヌ」創刊。1948年リヨン大学教授、1949年パリ大学文学部教授を経て、1952年コレージュ・ド・フランス教授に就任。1961年、パリの自宅で執筆中、心臓麻痺のため死去。著書『ヒューマニズムとテロル』（1947）『意味と無意味』（1948）『弁証法の冒険』（1955）『シーニュ』（1960）など。没後『見えるものと見えないもの』（1964）『世界の散文』（1969）、コレージュ・ド・フランス講義録などが刊行されている。

※ここに掲載する略歴は本書刊行時のものです。

目录:

[知覚の現象学2 下载链接1](#)

标签

评论

[知覚の現象学 2 下载链接1](#)

书评

[知覚の現象学 2 下载链接1](#)